



図書館だより

NO.1

丸亀市立綾歌中学校 平成29年 4月号



新学期が始まりましたが、みなさん、新しい生活には慣れましたか。

4月は出会いの季節です。図書館でもたくさんの本がみなさんとの出会いを待っています。一生の友となるような一冊を探しに来ませんか！

こどもの読書週間

もうすぐこどもの読書週間（4/23～5/12）です。今年の標語は『小さな本の大きな世界』です。子どもが手に持てるくらいの小さなサイズの本の中に、大きな世界が広がっています。本を読んで未知の世界を体験することで、豊かな心を育てて欲しいという願いが込められています。



〈図書館の利用案内〉



- 開館時間・・・8：30～16：30
（授業以外での生徒の利用は、昼休みと放課後）
- 貸出冊数・・・一人1冊（休日の前日は2冊）
- 貸出期間・・・一週間以内
（読み終わっていない時は延長手続きが必要）

👑 2017年第14回本屋大賞決定!!

昨年一年間（2015.12～2016.11）に刊行された日本の小説の中から全国の書店員が選んだ、一番売りたい本“本屋大賞”が決定しました。みごと大賞に輝いたのは、恩田陸さんの直木賞受賞作品『蜜蜂と遠雷』です。恩田さんは2005年『夜のピクニック』に続き2度目の大賞。



大賞

『蜜蜂と遠雷』

恩田 陸（幻冬舎）

物語の舞台は世界的に注目を集める、国際ピアノコンクール。世界各国からオーディションを勝ち抜いてきた天才たちの才能と才能がぶつかり、奇跡の音色を生み出す物語。最大の魅力は読者の心に響く音楽。



2位

『みかづき』

森 絵都（集英社）

昭和36年当時、塾の存在が世間であまり認められていなかった頃が物語のはじまり。昭和から平成へ移り行く時代の中で繰り広げられる、塾業界のリアルで熱い世界が描かれています。



3 位

『罪の声』

塩田武士 (講談社)

父の遺品の中から見つけた一本のカセットテープ。再生すると31年前に発生した未解決事件に利用された幼い子供の声が聞こえてきました。それはまぎれもなく自分の声！昭和最大の未解決事件の闇に迫る本。



4 位

『ツバキ文具店』

小川 糸 (幻冬舎)

主人公の鳩子は表向きは文具屋の店主、本業は江戸時代から続く代書屋の11代目。そんな鳩子のもとには日々風変わりな依頼が舞い込んできます。人と人との思いを優しくつなぐ代書屋の物語。



5 位

『桜風堂ものがたり』

村山早紀 (PHP研究所)

田舎の書店で、月原一整は宝物のような一冊の本に出会います。それをきっかけに、彼に関わる全ての人が一緒になって奇跡を起こしていく物語。



6 位

『暗幕のゲルニカ』

原田マハ (新潮社)

国連本部のロビーに飾られていた、ピカソの名画『ゲルニカ』のタペストリーが、ある日突然消えてしまいました。大戦前夜のパリと、現代のニューヨーク・スペインが交錯するスリリングな美術小説。



7 位

『i』

西 加奈子 (ポプラ社)

「この世にアイは存在しません。」入学式の翌日に数学教師が言った言葉が、主人公「アイ」に衝撃を与えました。それは目に見えない数の概念を意味する「i」のことでしたが、主人公の胸には別の思いが湧きおこります。



8 位

『夜行』

森見登美彦 (小学館)

私たち六人は京都で学生時代を過ごした仲間でした。十年前、京都の鞍馬の火祭を訪れた私たちの前から長谷川さんは突然姿を消しました。夜が更ける中、それぞれが旅先で出会った不思議な体験を語り出します。

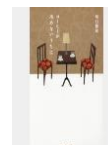


9 位

『コンビニ人間』

村田沙耶香 (文芸春秋)

36歳古倉恵子は大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトは18年目に突入。日々食べるのはコンビニ食、夢の中でもコンビニのレジを打つ。「普通」とは何か？を問う衝撃作。第155回芥川賞受賞。



10 位

『コーヒーが冷めないうちに』

川口俊和 (サンマーク出版)

お願いします、あの日に戻らせて下さい。ここに来れば過去に戻るってほんとうですか？

不思議なうわさのある喫茶店を訪れた4人の女性たちが紡ぐ、家族と愛の物語。